

講義科目名称： 社会的養護実践論

授業コード： 20133

英文科目名称： Theory and Practice of Social Care for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	選択必修
担当教員			
須江 泰子・宮島 清			
添付ファイル			

講義概要	日本の社会的養護の歴史、現状を理解し、国連子どもの代替的養育に関するガイドラインをたよりに、今後の社会的養護実践の在り方について、総括的に議論・検討を行う。 その上で、社会的養護におけるソーシャルワーク、施設養護の改革、家庭養護促進、里親養育支援などのテーマについて検討する。 授業は、事例や施設職員のレポートなどを取り入れ、グループワークを多用して理解の促進を図る。		
各回の進行予定	第1回	社会的養護の概念・歴史（総論） 我が国の子どもたちが置かれた社会を振り返り、その支援や児童養護施設の成り立ち、施策の展開を理解する。	
	第2回	社会的養護の対象となる子どもと家族の状況 DV・ひとり親家庭・ステップファミリー、子どもの貧困、発達障害、知的障害、精神障害、学習の遅れ、婚姻によらない出産などの事例を通じて、子どもと家族の現状及び課題を考察する。	
	第3回	里親養育の現状と課題 里親制度を切り口に、養子縁組との違い、里親養育の強みと弱み、実親との関係などの視点から家庭養護を考察する。	
	第4回	里親ソーシャルワークの現状と課題 里親の登録からマッチング、交流・委託、その後の支援について、事例を用いて理解を深める。	
	第5回	施設養護実践の現状と課題（養育を中心に） 施設の種別・形態、職員配置と勤務形態、養育形態や入所児童の特徴など、養育者側からみた社会的養護の実践と、入所している子どもたちの体験の理解を通して、現状と課題を考える	
	第6回	施設養護実践で展開されるソーシャルワークの現状と課題 主にファミリーソーシャルワーカーの視点から、入所前から入所初期、家族との交流及び引き取りなどについて、現状と課題を考える。	
	第7回	社会的養護に関する課題① 乳児の里親委託、児童養護施設からの家庭引き取り、ライフ・ストーリーワークなどをテーマに事例から学ぶ。	
	第8回	社会的養護に関する課題② 被措置児虐待、社会的自立のための支援やアフターケアなどをテーマに事例から学ぶ。	
講義のねらいと到達目標	【講義のねらい】保護者による養育を受けられない子ども、保護者の養育に課題が認められる子ども、またその保護者及び家族全体を理解するための理論と支援する方法について、講義・事例研究等により習得する。 【到達目標】 講義・事例研究等を通して、ねらいに記した対象者の理解を深め、円滑な支援が行えるようになる。 【認定社会福祉士研修認証科目】		
指定教科書(テキスト)	特に定めない。		
参考文献・関連URL等	・「社会的養護（新・プリマーズ・保育・福祉）第4版」 ミネルヴァ書房(2016) 小池由佳・山縣文治(編著) 第12章～15章宮島分担執筆 ・「社会保障研究第2巻第2・3号（通巻第6号：2017年12月刊）・・特集：要保護児童支援の現状と課題：国際比較からの示唆」国立社会保障・人口問題研究所 論文番号04「日本における社会的養護の現状：現場での取り組みを踏まえて」宮島清 ・「子どものための里親委託・養子縁組の支援」宮島清・林浩康・米沢普子 編著 明石書店(2017)		
出欠確認方法	リアクションペーパーの提出。 3回以上欠席した者の単位認定はできない。		
成績評価の方法	評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。 授業への参加姿勢（2.5点×8回=20点）、リアクションペーパー（10点×4回=40点）、課題レポート(40点)を総合して評価する。		
成績評価基準の内容	60点以上を可とし、60点未満の場合は不可とする。		
事前・事後学習のためのアドバイス	児童福祉法上に定められている児童福祉施設の種別や役割について事前学修し、保護者による養育を受けられない子どもの立場に立った支援について、授業を通じて理解を深め、自らの実践と結びつけて欲しい。		
他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード	子ども家庭福祉全般は「子ども家庭福祉の理論と方法」で扱うため、併修を推奨する。		
ベンチマーク	1：ウ 価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者 2：イ 理論と実践の両面にわたる能力を備えている者 3：ア 福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者		